

【オリンピック交流事業】 少年少女夢つなぐ野球教室 シドニー 2000 オリンピック
野球競技日本代表 本市出身のオリンピック野上修さんと子どもたちが交流をしました！



野上 修 氏プロフィール

【本市出身：常陸大宮大使】

大宮西小学校→大宮中学校→水戸商業高等学校
→明治大学→日本生命

○高校時代 第64回選抜甲子園出場

○明治大学時代

東京六大学リーグで3度のベストナイン

○日本生命時代

都市対抗野球、社会人野球日本選手権で2度
の優秀選手

○シドニー 2000オリンピック野球競技日本代表

ホストタウン交流計画の一環として、将来を担う子どもたちがオリンピックと直にふれあうことで未来への夢や希望を抱き、スポーツに対する関心などを深めるとともに東京2020大会の機運を醸成する目的で、野球日本代表として2000年シドニーオリンピックに出場した本市出身の野上修さんを招いた野球教室を大宮運動公園市民球場で開催し、小学1年生から6年生までの児童116人と野球による交流をしました。

はじめに、背番号「9」の日本代表ユニフォームを着た野上さんとストレッチやランニングなどの準備運動をした後、野球の実技指導が行われました。キャッチボールでは「相手を取りやすい顔の正面をめぐって投げる」また、守備練習では「グローブに入ったボールを利き手でつかむまでの速さを意識し次の動作につなげることが大切」と野上さんからアドバイスがありました。

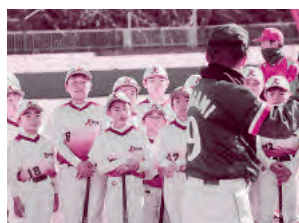
打撃練習では「構え方は自由で個性があっていい。ただし、バットを持つ高さは、傘を広げて持つ位置が理想で、ボールに当てるまでの距離は最短」など具体的な動作も学びました。子どもたちの代表16人と野上さんのホームラン競争では、みんなからの応援を背に、野上さんの指導を实践しながらバットを振っていました。



▲準備運動も一緒に



▲投げる練習



▲打撃練習



▲ホームラン競争



▲講演会の様子



最後に行われた講演会では、小学生の頃の話で「学校から帰るとすぐ近所の凸凹のある空き地で塀にボールを当てては、グローブでキャッチする練習を毎日遅くなるまで繰り返していた」ことや大宮中学校・高校・大学・社会人時代の野球にまつわるエピソードのほか、シドニーオリンピック日本代表に選ばれた時の気持ちや出場した感想などを分かりやすく丁寧な言葉で話しました。野上さんは、「家族や周りの方々に支えてもらいながら野球をやり続けていたからこそ、オリンピックに出た今の自分がある。とにかく野球を楽しく、できる限り長く続けてあきらめず頑張ってもらいたい。そして、今日参加したみんなの中からオリンピックに出場する選手が出てくれればとても嬉しい。」とのメッセージを子どもたちに伝えました。

参加した子どもたちは、「基本を見直すことができ、中学校の野球部にもつなげていきたい」「今日野上さんと野球をしてもっと野球が好きになった」「野上さんのようにオリンピック選手になれるよう頑張りたい」と話していました。

■問い合わせ■

政策審議室 企画政策課 東京オリパラ推進室
☎52-1111 (内線309)